

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-219166

(43)Date of publication of application : 27.08.1993

(51)Int.Cl.

H04M 1/04
H04B 7/26
H04M 1/02

(21)Application number : 04-018684

(71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO
LTD

(22)Date of filing : 04.02.1992

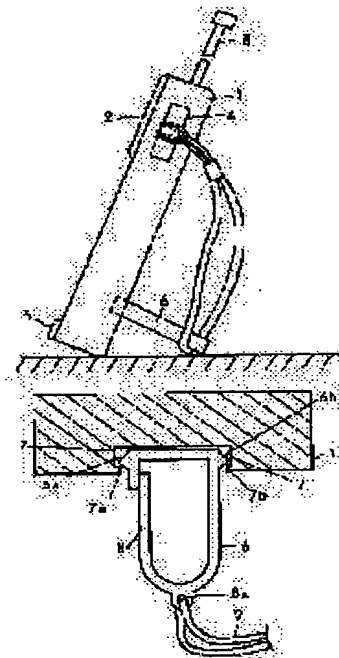
(72)Inventor : ADACHI NAOTOMO
KUDO MICHIOYOSHI
KUBO TETSUYA

(54) RADIO EQUIPMENT WITH STAND

(57)Abstract:

PURPOSE: To make a storage space small by waiting/reception without deteriorating the sensitivity of an antenna even at the time of waiting/reception and making the main body of the radio equipment to stand by itself even at the time the other.

CONSTITUTION: A recessed part 7 is formed on the back side of the main body of the radio equipment 1, projections 7a and 7b are provide at the opening part of the recessed part 7, a ring-formed stand 6 is forced inside of the recessed part 7, the projections 7a, 7b of the recessed part 7 and the projections of 6a, 6b of the stand 6 are engaged, the stand 6 is rotated by a prescribed angle to make the stand 6 to obliquely stand and the main body of the radio equipment 1 is made to stand by itself by leaning against the stand 6.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-219166

(43)公開日 平成5年(1993)8月27日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/04	A	9077-5K		
H 0 4 B 7/26	V	6942-5K		
H 0 4 M 1/02	C	9077-5K		

審査請求 未請求 請求項の数2(全 4 頁)

(21)出願番号 特願平4-18684

(22)出願日 平成4年(1992)2月4日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 安達 直知

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

(72)発明者 工藤 道義

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

(72)発明者 久保 哲也

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

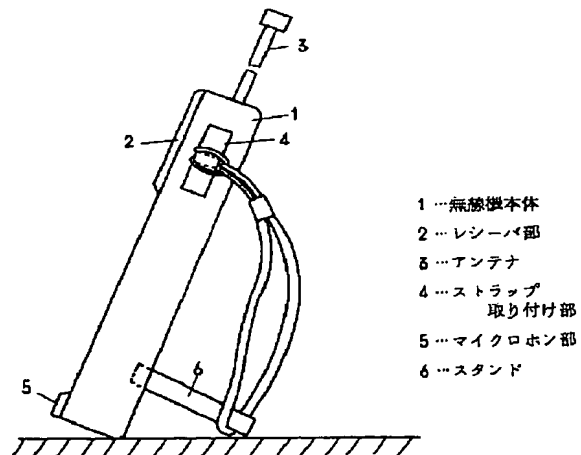
(74)代理人 弁理士 小銀治 明 (外2名)

(54)【発明の名称】 スタンド付き無線機

(57)【要約】

【目的】 待ち受け時でも、アンテナ感度を低下することなく、待ち受けができ、待ち受け時以外でも、無線機本体を自立させることにより、置き場のスペースも小さくて済む。

【構成】 無線機本体1の背面側に凹部7を形成し、凹部7の開口部に突起7a、7bを設け、凹部7内に環状のスタンド6を押し込み、凹部7の突起7a、7bとスタンド6の突起6a、6bに係合させ、スタンド6を所定角度回転させて斜めにスタンド6を立てて、無線機本体1をスタンド6に寄り掛けて無線機本体1を自立させる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 無線機本体と、この無線機本体の所定の位置に回動可能に取り付けられ且つ前記無線機本体を立てる時にこの無線機本体を支持するスタンドとを備えたスタンド付き無線機。

【請求項2】 前記スタンドはバネ性を有する環状を成し、押圧時に切欠環状を呈するフック機能を備えることを特徴とする請求項1に記載のスタンド付き無線機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、携帯電話等の無線機に利用するストラップ付き無線機に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の携帯電話等の無線機には、無線機を手提げ用、あるいはスポンのバンドに通すためのストラップが取り付けられているものが多い。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の無線機では、ストラップが取り付けられていても、無線機本体を自立させることができないため、無線機本体が自立しないもの場合には、無線機本体を机等の上に横にして置かなければならない。このような場合、アンテナが水平方向を向くことになり、待ち受け時のアンテナ感度がよくないという問題があった。

【0004】また、無線機本体が自立する場合においても、安定性が悪いため、前または後ろに無線機本体が倒れやすいという問題があった。

【0005】本発明はこのような従来の問題を解決するものであり、無線機本体を自立させることができ、待ち受け時においてもアンテナ感度の低下の防止と無線機本体の置き場の省スペースが可能となり、かつ無線機本体を載置しない場合はベルトやリング状の物に吊り下げたりでき、両手を自由に使用できるという優れたスタンド付き無線機を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は上記目的を達成するために、無線機本体に回動可能なスタンドを設け、またスタンドをバネ性を有する環状となし、押圧時には切欠環状となるようにし、受信待ち受け時等に無線機本体を自立させる場合には、スタンドを無線機本体に対して斜めになるように回動させて無線機本体を背面方向に傾けて支持することにより自立させる。

【0007】また無線機本体を自立させない場合には、リング状のバネ性になっているスタンドを押すことにより、スタンドが切欠環状になり、フックとしての機能を呈するようになり、この切欠環状の部分を開いている所にベルトやリングを挿通して無線機本体を吊り下げようとしたものである。

【0008】

【作用】したがって、本発明によれば、無線機本体に対

2

して回動自在のスタンドを取り付けることにより、スタンドにより、無線機本体を背面方向に傾けた状態で自立させることができるという効果を有し、また、スタンドがバネ性を有し、フックとしての機能を呈するので、スタンドとして使用しない場合には、ベルトまたはリング状のものにでも無線機本体を吊り下げることができるという効果を有する。

【0009】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づいて説明する。

【0010】図1は本発明の実施例の構成を示すものであり、無線機本体を自立させた状態の側面図である。また、図2は無線機本体の底部近傍の断面図である。この図1、図2の両図において、1は無線機本体であり、外觀形状が例えば直方体状に形成されている。

【0011】2は無線機本体1の上部に配置されたレシーバ部であり、3は無線機本体1の上面から伸縮自在に伸長するアンテナ、4は無線機本体1の側面において、レシーバ部2に対応する位置に形成されたストラップ取り付け部である。このストラップ取り付け部4は、図1、図2からは見えないが、例えば、正面状がコ字型に形成されている。

【0012】また、5は無線機本体1の底部近傍において、前面側に配置されたマイクロホンである。このマイクロホン5の反対側、すなわち、無線機本体1の背面側にスタンド6が係合されている。すなわち、図2から明らかなように、無線機本体1の背面側には、断面形状コ字型の凹部7が形成されていて、この凹部7の開口部に突起7a、7bが設けられている。この凹部7に環状に形成したスタンド6の基部が遊挿されている。

【0013】6a、6bはスタンド6の基部の両側にこのスタンド6と一体的に形成された突起であり、この突起6a、6bが凹部7内において、凹部7の突起7a、7bと係合しており、これにより、スタンド6が凹部7内において無線機本体1の上下方向に同動自在になっている。

【0014】8はスタンド6のU字状に形成されたフック部であり、環状に形成されているスタンド6の一部を基部近傍において、切断して、その切断近傍の一端を接合している。このフック部8を押すことにより、スタンド6は切欠環状になり、接合部分が開放され、その開放された部分から建物の柱に取り付けたリング（図示せず）やスポンのベルト等を通すことができるようになっている。

【0015】8aはこのフック部8に形成した穴である。9はこの穴8aに挿入されたストラップである。このストラップ9は図3に示すように、エンドレス状に形成されている。この図3における10はストラップ9を挿通した接合部である。この接合部10は移動可能になっており、移動位置によって例えば、大きな紐部9a、

3

小さな紐部9bを有するようになっており、これらの径寸法を適宜変更できるようになっている。

【0016】小さい紐部9bは図1に示すように、ストラップ取り付け部4に挿入してリング状にした状態で、この小さい紐部9bに大きい紐部9aを挿入することにより、無線機本体1にストラップ9を介してスタンド6が連結されることになる。次に上記実施例の動作について説明する。図2において、スタンド6の突起6a、6bを無線機本体1の凹部7内に押し込むことによって、これらの突起6a、6bが凹部7の突起7a、7bを乗り越えることによって、スタンド6の基部が凹部7内に入り込み、突起6a、6bを支点として、スタンド6が凹部7内で回動自在になる。

【0017】これにより、スタンド6を図1に示すように、所定角度回動させることにより、スタンド6の先端を机の他の台板上に当てて、無線機本体1を傾けて自立させることができる。

【0018】また、無線機本体1を自立させない場合には、すなわち、スタンド6を自立用途に適用しない場合は、図3に示すように、スタンド6のフック部8を押すことによって、実線の位置から破線の位置のように、切欠環状にすることにより、このスタンド6内にズボンのベルトに通したり、あるいは建物の柱等に取り付けたリング等を挿通して無線機本体1を吊り下げることができる。

【0019】

【発明の効果】本発明は上記実施例より明らかなように、無線機本体に回動自在のスタンドを取り付け、このスタンドを所定角度回動させて傾けて無線機本体を寄せ掛けるようにして自立させるようにしたものであり、アンテナを水平方向に置くことができなくなり、アンテナ感度*

4

*を下げることなく、待ち受けができるとともに、待ち受け時以外でも自立させることにより、無線機本体の置場のスペースも少なくすむという効果を有する。

【0020】さらに、スタンドがバネ性を有し、フックとしての機能を呈するので、スタンドとして使用しない場合には、ズボンのベルトまたはリング形状のものにでも無線機本体を吊り下げることができ、ベルトに吊り下げた場合には、両手を自由に使えるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例におけるスタンド付き無線機のストラップ使用時の側面図

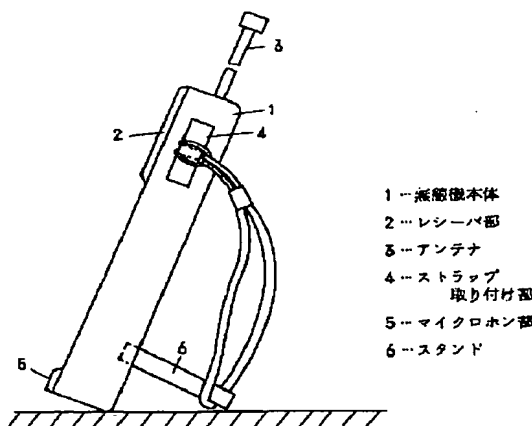
【図2】同ストラップ付き無線機のストラップ使用時の断面図

【図3】同ストラップ付き無線機に適用されるストラップの外観図

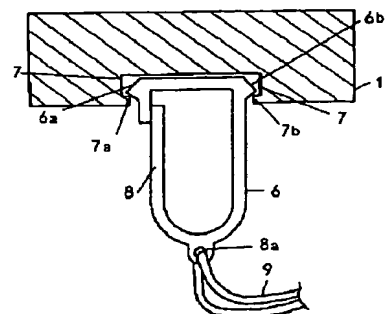
【符号の説明】

- 1 無線機本体
- 2 レシーバ部
- 3 アンテナ
- 4 ストラップ取り付け部
- 5 マイクロホン部
- 6 スタンド
- 6a 突起
- 6b 突起
- 7 凹部
- 7a 突起
- 7b 突起
- 8 フック部
- 9 ストラップ
- 10 接合部

【図1】



【図2】



(4)

特開平5-219166

【図3】

